

【学習活動の概要】

1	単元名 『野さいブック』でみんなに知らせよう! 野さいのよさ	
2	単元の目標 自分の調べたいことを明らかにしながら段落相互の関係に気を付けて読んだり, 調べたことを基に, 理由や事例を挙げて調査報告文を書いたりすることができる。	
3	評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・疑問に思ったことについて本の利用の仕方を工夫して調べようとしたり, 調べて分かったことを報告する文章に書き表したいという思いを膨らませて書こうとしたりしている。 【書く能力】 ・調査の結果とそこから考えたことなどが明確に伝わるよう, 理由や事例を挙げて調べたことを報告する文章を書いている。 【読む能力】 ・読む目的に応じて, 結論とその理由や根拠などといった段落相互の関係や事実とそれに基づく意見との関係を考えながら読んでいる。 【言語についての知識・理解・技能】 ・原因と結果, 意見と根拠などの関係を明確にすることなど, 接続語が果たす役割を理解して, 文章の中で使っている。	
4	教材 野菜について解説した教科書教材文 教師自作モデル調査報告文	
5	主な学習活動 (単元の指導計画(全12時間))	
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一 次	学習の見通しをもつ。 ・野菜について解説した文章を基に, 「自分の苦手な野菜のよさを調べて報告文を書く」という学習課題を設定する。	様々な野菜のよさを述べた文章をブックトークで紹介し, 見通しをもたせる。教師の自作モデル調査報告文を基に計画を立てるようにする。
第二 次	これまでの学習を振り返り, 学習計画を立てる。 教材文を, 目的に応じて以下の点に注意して読む。 書かれた内容について興味をもったことは何か。 書かれた内容を基に, さらに調べてみたいことや他にどんな野菜について調べてみたいか。 筆者の考えを明確に表すために, 理由や根拠, 事例などをどのように書き表しているか。 並行読書しながら, 自分の興味のある情報を集める。	疑問点を探しながら焦点化して読んだり, 関連する他の図鑑や資料の情報と結び付けて読んだりできるようにする。 筆者の考えと用いられている事例とを関係付けて読むなど, 自分の調査報告文に取り入れたい工夫点を見つけて読めるようにする。
第三 次	集めた材料を構成し, 調査報告文を書く。 ・選んだ野菜について, 本や図鑑などで読んで集めてきた書く材料を整理する。 ・収集した情報を基に, 調査報告文の構成を考える。	教科書教材は, 識者が児童向けに分かりやすくかみ砕いて執筆した解説的な文章である。一方, 児童が書くものは疑問に思って調べ, 初めて気付いたり知って驚いたりしたことを中心に述べる調査報告文であり, そのことに留意し, 文種に応じた構成や記述ができるようにする。
第四 次	理由や事例を挙げていることが読み手に明確に伝わるよう, 接続語を工夫するなどして調査報告文を書く。 「野さいブック報告会」を開く。 ・互いの調査報告文を読み合う。 ・調べた野菜のよさが伝わる文章となっているかを評価し合う。	学習を振り返り, 学んだことを整理するとともに, 調べて報告する文章を書くことのよさを実感できるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「B書くこと」の指導事項「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」と「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」とを関連付けることにより、効果的な指導を行うことを意図したものである。

その際、「B書くこと」の言語活動例「イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書くこと」と、「C読むこと」の言語活動例「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。」とを組み合わせ、学習の過程が児童自身にとっての課題解決の過程となるように言語活動を位置付けている。

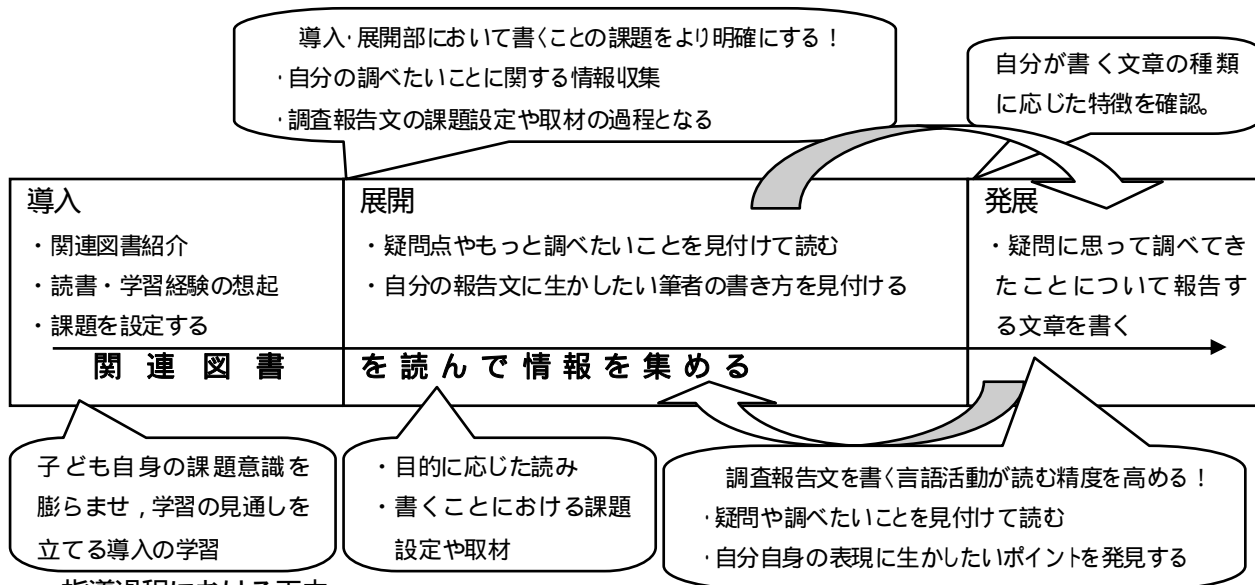
【言語活動の充実の工夫】

本単元は、「B書くこと」と「C読むこと」とを相互に関連付けて言語活動を行うことにより、本単元で目指す国語の能力を一層効果的に育成することを意図している。

「書く能力」を高める
読むことの指導と組み合わせることで、自分が調べたいことを明らかにし、主体的な情報収集の過程を生かして「書こうとすることの中心」を一層明確にして書くことができるようにする。

「読む能力」を高める
書くことの指導と組み合わせることで、自分が書くために情報を読むという「目的に応じて、中心となる語や文をとらえ」る読みを一層主体的に行えるようにする。

こうした意図を実現するための言語活動の工夫点として、以下のようなことが挙げられる。



指導過程における工夫

単元の導入の工夫

単元の導入時は、児童が疑問を抱くきっかけとなる情報を、図鑑や事典などの関連図書資料によって提示するとともに、調査報告文を書くという課題を設定する。児童が学習の見通しを立てることを重視する。

展開部の工夫

展開部では、中核的な教材である説明的な文章を読むことを通して、読むことにおいては「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて」読むことを、書くことにおいては、「書こうとすることの中心を明確に」するため、自分が疑問に思って調べたいことを課題設定したり、教材文や並行的に読む資料から書く材料を集めたりすることを位置付ける。

発展部の工夫

発展部においては、これまでの学習の過程を踏まえ、調査報告文の構成から記述、推敲、交流に至る学習活動を行う。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：